

## 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の 核実験に対する抗議声明

朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）は2013年2月12日、国際社会からの度重なる制止要請にも関わらず、核実験を強行した。北朝鮮の核実験は、2006年、2009年に続いて今回が3回目である。

JR 東労組は、北朝鮮による核実験に強く抗議するとともに、あらゆる核実験および核兵器の保有に反対する立場を改めて明らかにする。

北朝鮮の朝鮮中央通信は、「これまでより爆発力が大きく、小型化、軽量化した原子爆弾を使った」と核実験の成功を伝えるとともに、実験の目的について「我が国の平和的な衛星打ち上げを、乱暴にも侵害した米国の敵対行為に対する対応措置の一環」と喧伝している。

しかし、いかなる理由によってその本質を覆い隠そうとも、核実験が地球環境に悪影響を及ぼし、核兵器が人類の脅威である事実は不変である。日本は唯一の被爆国であり、原爆によって広島・長崎において多くの人々が犠牲を被った歴史的事実を決して忘れることはできない。

核兵器による抑止力が欺瞞であることは明白である。アメリカをはじめとする核保有国は、核不拡散を唱える一方で、これまで2千回以上もの核実験（臨界前核実験・コンピュータによるシミュレーション実験を含む）を行い、核兵器開発を継続している。いかなる核実験も許されるものではなく、すべての核保有国は核兵器をただちに廃絶すべきである。

私たちは、福島第一原発の事故によって、核の危険性を目の当たりするとともに、核においては平和利用、軍事利用の区別が無意味であることを再認識した。核実験に反対することと、脱原発社会の実現を求めることは同義である。JR 東労組は子どもたちが安心して暮らせる社会を残すため、そして世界の恒久平和のために、あらゆる核の根絶を目指して闘うことを表明する。

2013年2月14日

東日本旅客鉄道労働組合